

消防署からのお知らせ

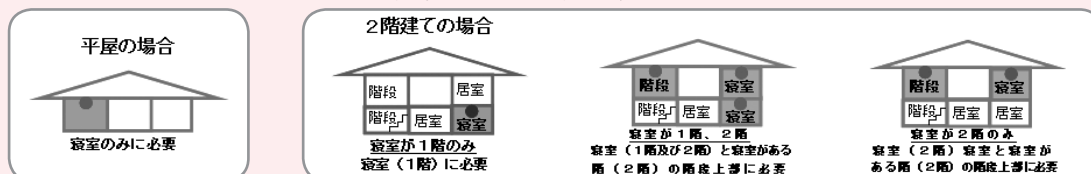
住宅用火災警報器を設置しましょう！！

◎住宅用火災警報器とは？

火災が発生したときは、目で煙や炎をみたり、鼻で焦げ臭いにおいを感じたり、耳でぱちぱちという音を感じたり…と五感によって気づくことがほとんどだと思います。しかし、それだけでは、就寝中や仕切られた部屋などで物事に集中している時などには、火災に気づくのが遅れてしまいます。そこで、家庭内での火災の発生をいち早くキャッチし、知らせてくれるのが、住宅用火災警報器です。

◎どこに設置するの？

寝室と寝室がある階の階段上部に設置することが必要です。



◎どのくらい効果があるの？

総務省消防庁において、住宅火災における被害状況を分析したところ、住宅用火災警報器が設置されている場合は、設置されていない場合に比べ、死者数と焼損床面積は半減、損害額は約4割減した結果となりました。

◎福島県の設置率は全国の平均以下です！！（最新版）

全国設置率
82.6%
条例適合率
68.3%

須賀川消防本部管内設置率
69%（県内12消防本部中 11位）
須賀川消防本部管内条例適合率
39%（県内12消防本部中 最下位）

福島県設置率
79.3%（全国32位）
福島県条例設置率
58.2%（全国41位）

平田村設置率
90.26%
条例適合率
35.81%

設置義務です
住宅用火災警報器



※「設置率」とは、市町村の火災予防条例で設置が義務付けられている住宅の部分のうち、一箇所以上設置されている世帯（自動火災報知設備等の設置により住宅用火災警報器の設置が免除される世帯を含む。）の全世帯に占める割合です。

※「条例適合率」とは、市町村の火災予防条例で設置が義務付けられている住宅の部分全てに設置されている世帯（同上）の全世帯に占める割合です。

健康アドバイス

公立小野町地方総合病院

花粉症について

今年のスギ花粉飛散数は、例年よりやや少ないと言われていますが、飛散数の少なかった昨年と比べると非常に多いと予測されています。昨年症状の軽かった花粉症の患者さんも、今年は注意が必要です。最大の対策は、原因となるスギ花粉に触れないことです。

- ①花粉情報に注意する
- ②飛散の多い時の外出を控える
- ③飛散の多い時は窓・戸を閉めておく、洗濯物・布団を外に干さない
- ④飛散の多い時は外出時にマスク・メガネを着用する
- ⑤外出時、毛織物などのコートは避ける
- ⑥帰宅時、衣服・髪をよく払う、洗顔・うがい・鼻をかむ
- ⑦掃除の励行

これらの対策を行っても症状を完全に抑えるのは難しいです。いわゆる初期療法で、花粉が飛び始める前からお薬を飲み始めると症状が軽く済むと言われており、2月下旬から飲み始めるのが良いと思われます。

また、毎年症状がひどくて困ったという方には、※舌下(ぜっか)免疫療法をお勧めします。詳しくは主治医にご相談ください。

※舌下免疫療法：舌の下で治療薬を長い間保持することで免疫をつけるアレルゲン免疫療法のひとつ。舌の下に、スギ花粉のエキスを投与するので、簡単に自宅でできるうえに、注射の痛みもなく、また、通院の負担も少ないというメリットがあります。

耳鼻咽喉科（佐藤勇医師）の診療日及び受付時間
木曜日／8：30～12：00、13：00～16：30
（第3木曜日は午後休診です）

1月5日より耳鼻咽喉科（福島医大 今泉光雅医師）の診療が始まりました。診療日及び受付時間は火曜日 13：00～15：30（第3火曜日は休診です）

詳しくは、公立小野町地方総合病院 ☎0247-72-3181 までお問い合わせください。



佐藤 勇 医師

令和2年度総合健診結果のお知らせ

新型コロナウイルス感染症の影響で12月に延期した総合健診では、健康診査や各種がん検診が行われ、総数767人の方が受診しました。

健(検)診の結果をご確認ください！

健康診査や各種がん検診の結果を1月に郵送しておりますが、内容を確認していただけたでしょうか。何らかの検査項目に異常が発見された要精検者は、40歳以上の国保特定健診では60%、19～39歳健診では29.5%が違和感ありまして、各がん検診では延べ84人となりました。

要精検の方は、早めに受診し必ず精密検査を受けましょう。

塩分の取りすぎに注意しましょう！

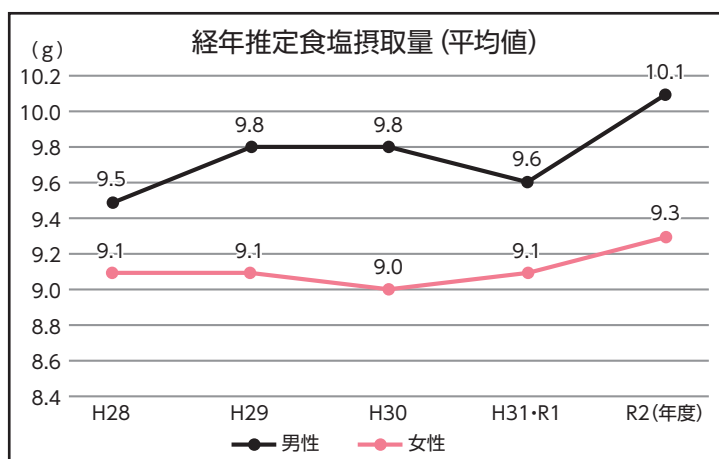
～推定食塩摂取量の結果から～

村では、健診に推定食塩摂取量検査を取り入れていますが。心臓病や脳血管疾患、腎臓病の原因ともなる高血圧症の早期予防に努めましょう。

推定食塩摂取量は男女によって基準値が異なり、特定健診受診者の男女の平均値【表1】と経年結果【図1】は下記のとおりです。

男女ともに基準値を超えており、塩分摂取は過剰傾向にあります。

病気予防のため減塩に取り組み、健康長寿を目指しましょう。



【図1】

令和2年度推定食塩摂取量平均値		
	男性	女性
基準値	7.5g 未満	6.5g 未満
村検査結果	10.1g	9.3g
前年度比較	0.5g ↑	0.2g ↑

【表1】

健康 アドバイス

ひらた中央病院



小原 大治 医師

新型コロナウイルスの感染、拡散予防のため、日々ご苦勞様です。

平田村では高齢化が進み、認知症や脳卒中などの加齢に伴う疾患が増えています。

認知症は物忘れ以外に今まで普通にできたことが出来なくなるといった症状が出やすいアルツハイマー型認知症や記憶が階段状に薄れる脳血管性認知症、うつ症状による意欲低下が主の仮性認知症などがあります。

脳卒中には加齢に伴う脳梗塞、高血圧による脳出血、脳動脈瘤によるくも膜下出血があります。

これらの疾患の危険性を早期に発見するためには脳MRIを含めた全身的な検査が必須です。認知症は早期発見により、進行を抑制することが可能になり、脳卒中は発症予防のための介入が可能です。当院では本年4月にMRIを導入し、本格的に認知症診療、脳卒中発症予防の治療を開始する予定です。認知症、脳卒中は発症前に介入することが非常に大切です。御家族に認知症、脳卒中のおられる方は御相談ください。

問い合わせ：ひらた中央病院 ☎ 55-3333